

大分県長期漁海況予報

〔令和5(2023)年8月～12月までの海水温・漁模様の見通し〕



大分県農林水産研究指導センター水産研究部
879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦194-6

Phone 0972-32-2155 Fax. 0972-32-2156 <https://www.pref.oita.jp/soshiki/15090/>

海況経過<令和5年4月～令和5年7月>

■黒潮

- ・都井岬沖では、概ね離岸傾向で推移しました。
- ・足摺岬沖では、6月下旬の「やや離岸」を除き、「かなり離岸」～「著しく離岸」で推移しました。
- ・A型流路(大蛇行)が継続しました。

■水温

豊後水道の水温(0～75m層)は、4月は「やや高め」、5、7月は「平年並」、6月は「やや低め」で推移しました。(図1)。

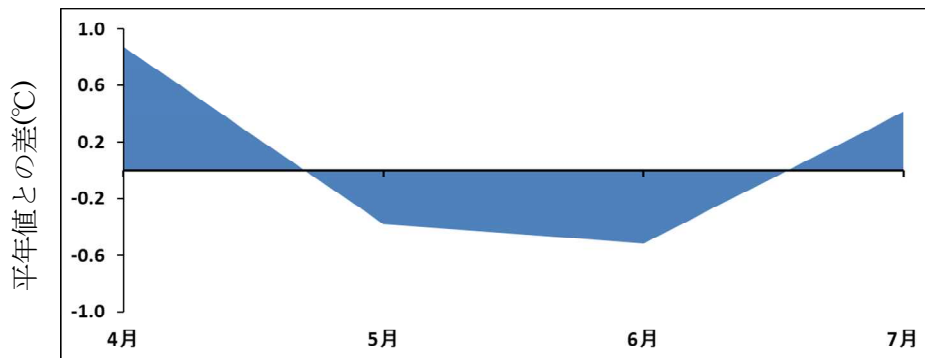


図1 豊後水道における水温の平年値との差(0～75m層の平均値)

■塩分

豊後水道の塩分(0～75m層)は、4、5、7月は「やや低め」、6月は「低め」と、低め基調で推移しました(図2)。

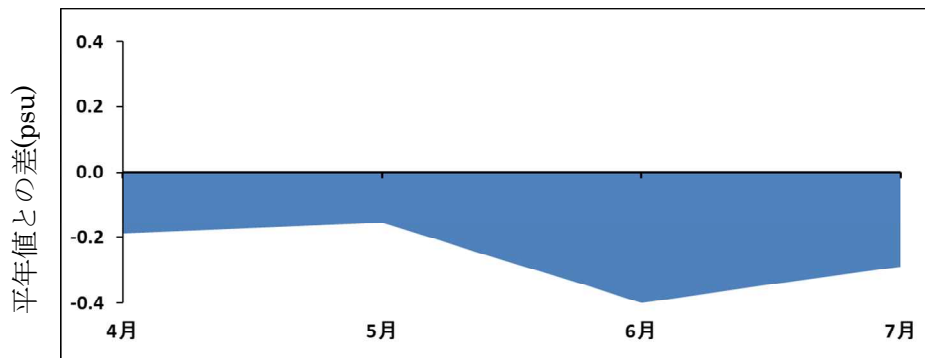


図2 豊後水道における塩分の平年値との差(0～75m層の平均値)

今後の海況の見通しく令和5年8月～12月

■黒潮

- ・都井岬沖では、離岸傾向で推移するでしょう。
- ・足摺岬沖では、離岸傾向で推移し、一時的に接岸することがあるでしょう。
- ・黒潮はA型基調で推移し、大蛇行が継続する可能性が高いでしょう。

■沿岸水温

沿岸水温は「平年並」～「高め」で推移するでしょう。

■予測の説明と根拠

- ・黒潮流路予測は、2023年度第1回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報(国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所および関係都道府県:2023)を参考にしました。
- ・沿岸水温は、2023年度第1回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報と、福岡管区気象台の「九州北部地方3か月予報」(令和5年7月25日発表)を参考にしました(沿岸水温は気温の影響を強く受けると考えられているため)。

8月 「低め20%、平年並30%、高め50%」

9月 「低め20%、平年並30%、高め50%」

10月 「低め20%、平年並30%、高め50%」

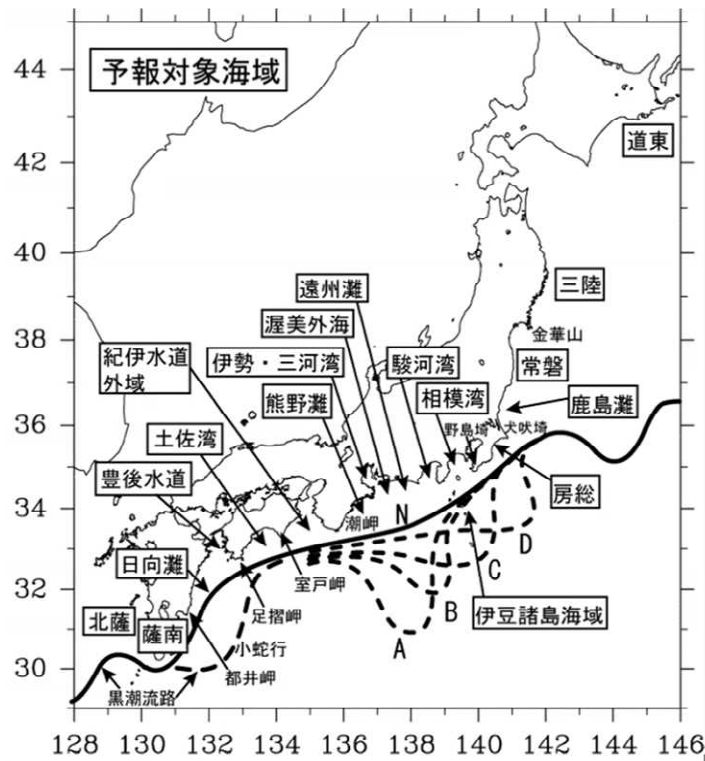


図3 黒潮流型の分類

※上図は太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報
(水産研究・教育機構プレスリリース資料)より引用

■マイワシ

□2023年4月～6月の漁況経過

2023年4月～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマイワシの水揚量は1トンで、前年比192%、平年比0.1%(1986年～2022年の平年値)と、前年を上回り、平年を大きく下回りました。水揚げの主体は2023年級群(0歳魚)であり、2022年級群(1歳魚)の個体も確認されました。

なお、近隣海域^(用語解説①)では、宮崎県は前年の393%の水揚量(1～6月の前年比)、愛媛県・高知県は前年水揚げなしとなっています。

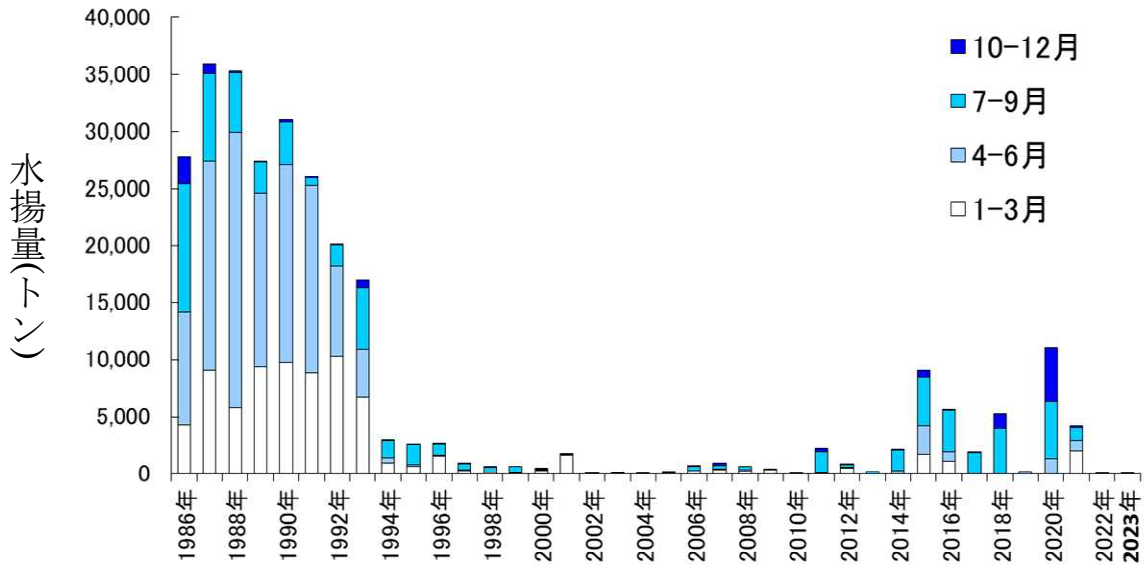


図4 まき網によるマイワシの水揚量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2023年8月～12月>

来遊量:

豊後水道南部への来遊量は、**低水準であった前年を上回る**でしょう。(2022年8月～12月:21トン)

水揚対象年級群および体長:

8月～12月は被鱗体長^(用語解説②)12cm～18cm前後の2023年級群(0歳魚)主体となるでしょう。

【説明】

2023年級群(0歳魚)が水揚げの主体であった4月～6月のまき網水揚量が前年同期を上回り、近隣県においても来遊がみられることから、来遊水準は低水準であった前年を上回ると予測しました。

■カタクチイワシ(成魚)

□2023年4月～6月の漁況経過

2023年4月～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるカタクチイワシの水揚量は37トンで、前年比21%、平年比6%(1986年～2022年の平均値)と、前年・平年を下回りました。水揚げの主体は、被鱗体長5.0cm～12.5cm前後の2023年級群(0歳魚)と2022年級群(1歳魚)でした。

なお、宮崎県では前年の80%、愛媛県では前年の46%、高知県では前年の44%の水揚量となっています(宮崎県、高知県は1～6月、愛媛県は4～6月の前年比)。

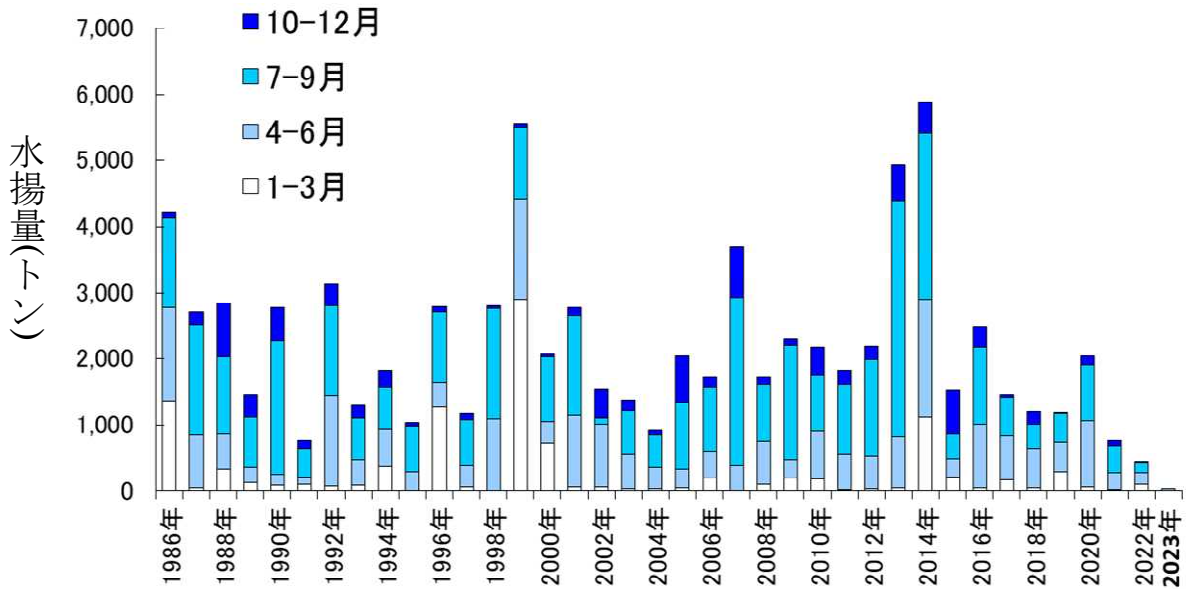


図5 まき網によるカタクチイワシの水揚量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2023年8月～12月>

来遊量:

豊後水道南部への来遊量は、**低水準であった前年並～上回る**でしょう。(2022年8月～12月:31トン)

水揚対象年級群および体長:

8月～12月は被鱗体長5cm～10cm前後の2023年級群(0歳魚)主体に2022年級群(1歳魚)が混じるでしょう。

【説明】

予測期間中の水揚げの主体は沿岸発生群(0歳魚)だと考えられます。2023年級群(0歳魚)が水揚げの主体であった4月～6月のまき網水揚量が前年を下回ったものの、6月以降は沖合を中心に大型個体(1歳魚)が漁獲されており、8月～12月の来遊水準は低水準であった前年並～上回ると予測しました。

■ウルメイワシ

□2023年4月～6月の漁況経過

2023年4月～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるウルメイワシの水揚量は121トン(前年同期5トン)で、平年比58%(1986年～2022年の平均値)と、前年を大きく上回り、平年を下回りました。水揚げの主体は被鱗体長5.5cm～17.0cm前後の2023年級群(0歳魚)でした。

なお、宮崎県では前年の74%、愛媛県では前年の614%、高知県では前年の288%の水揚量となっています。(宮崎県、高知県は1～6月、愛媛県は4～6月の前年比)。

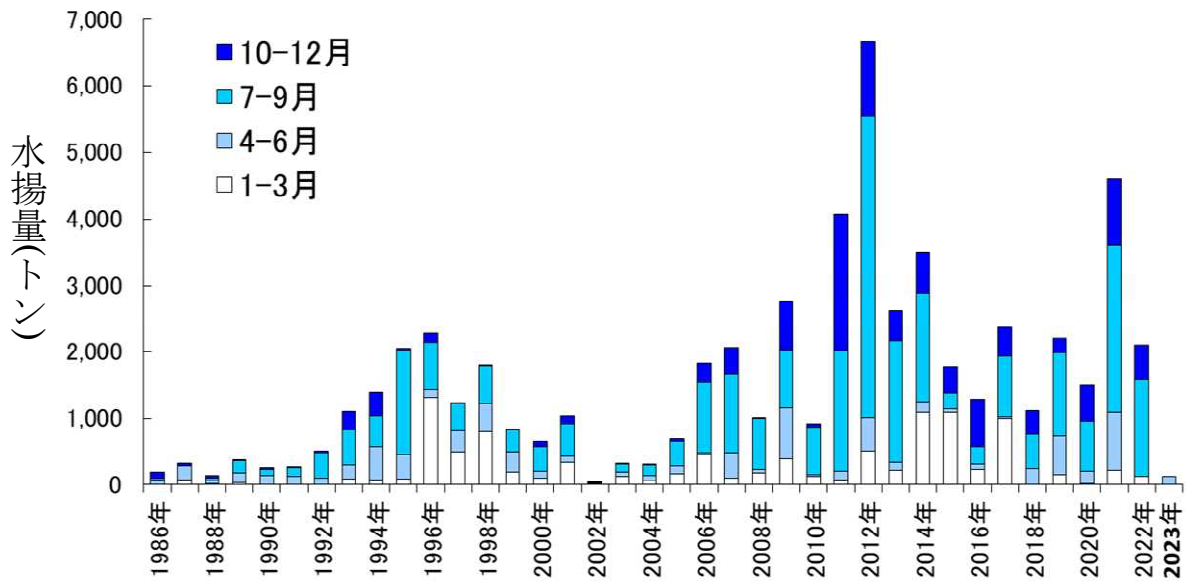


図6 まき網によるウルメイワシの水揚量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2023年8月～12月>

来遊量:

豊後水道南部への来遊量は前年を上回るでしょう。(2022年8月～12月:1,704トン)

水揚対象年級群および体長:

8月～12月は被鱗体長10.0cm～20.0cm前後の2023年級群(0歳魚)が水揚げの主体となるでしょう。

【説明】

2023年級群(0歳魚)が水揚げの主体であった4月～6月のまき網水揚量が前年同期を上回ることから、2023年8月～12月の来遊水準は前年を上回ると予測しました。

■マアジ

□2023年4月～6月の漁況経過

2023年4月～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマアジの水揚量は204トンを、前年比151%、平年比43%(1986年～2022年の平均値)と前年を上回り、平年を下回りました。水揚げの主体は尾叉長^(用語解説③)10.0cm～19.0cm前後の0～1歳魚(2022～2023年級群)で、尾叉長20.0cm～25.0cm前後の1歳魚(2020年級群)も水揚げされました。

なお、宮崎県では前年の115%、愛媛県では前年の89%、高知県では銘柄「あじ」が前年の194%で、銘柄「ぜんご」が前年の276%の水揚量となっています。(宮崎県、高知県は1～6月、愛媛県は4～6月の前年比)。

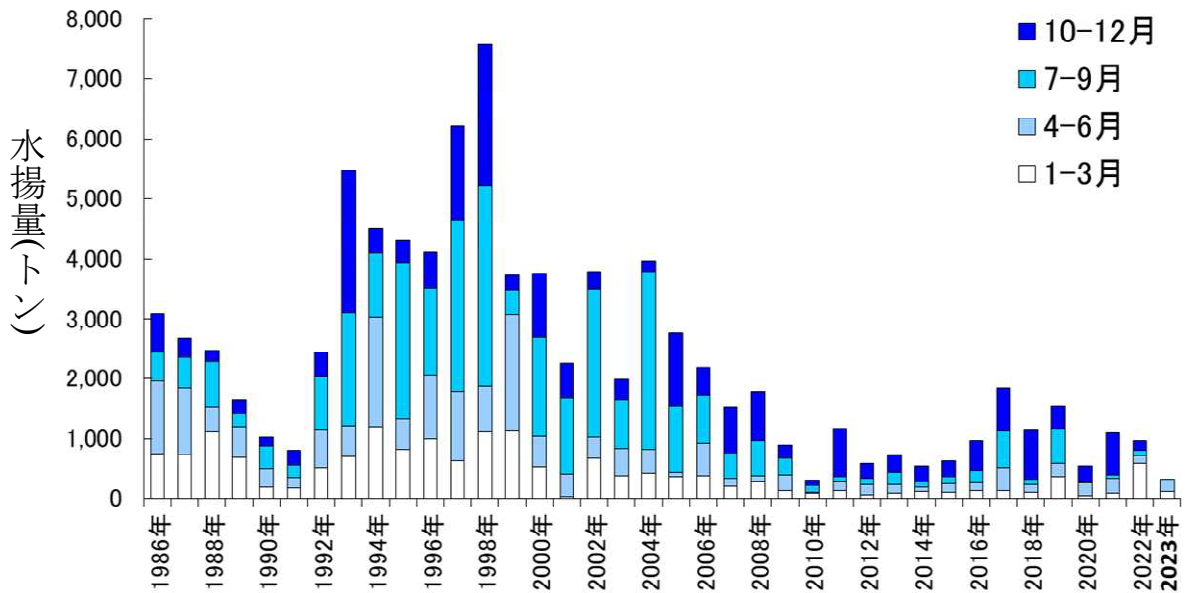


図8 まき網によるマアジの水揚量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2023年8月～12月>

来遊量:

豊後水道南部への来遊量は前年並でしょう。(2022年8月～12月:232トン)

水揚対象年級群及び体長:

尾叉長15.0cm前後の2023年級群(0歳魚)が主体となるでしょう。

【説明】

水揚げの主体は2023年級群(0歳魚)となる見込みです。2023年級群が水揚げの主体となる4月～6月のまき網水揚量は前年を上回りましたが、マアジ太平洋系群の資源量が低水準で推移していることを考慮し、来遊水準は前年並と予測しました。

■サバ類

□2023年4月～6月の漁況経過

2023年4月～6月における豊後水道南部主要3港（鶴見、米水津、蒲江）のまき網によるサバ類の水揚量は1,529トンで、前年比999%、平年比132%（1986年～2022年の平均値）と、前年・平年を上回りました。4月の水揚げの主体は、2022～2023年級群（0～1歳魚）のマサバと2023年級群（0歳魚）のゴマサバでした。5月の水揚げの主体は2023年級群（0歳魚）のゴマサバでした。

なお、宮崎県では前年の167%、愛媛県では前年の457%、高知県では前年の238%の水揚量となっています。（宮崎県、高知県は1～6月、愛媛県は4～6月の前年比）。

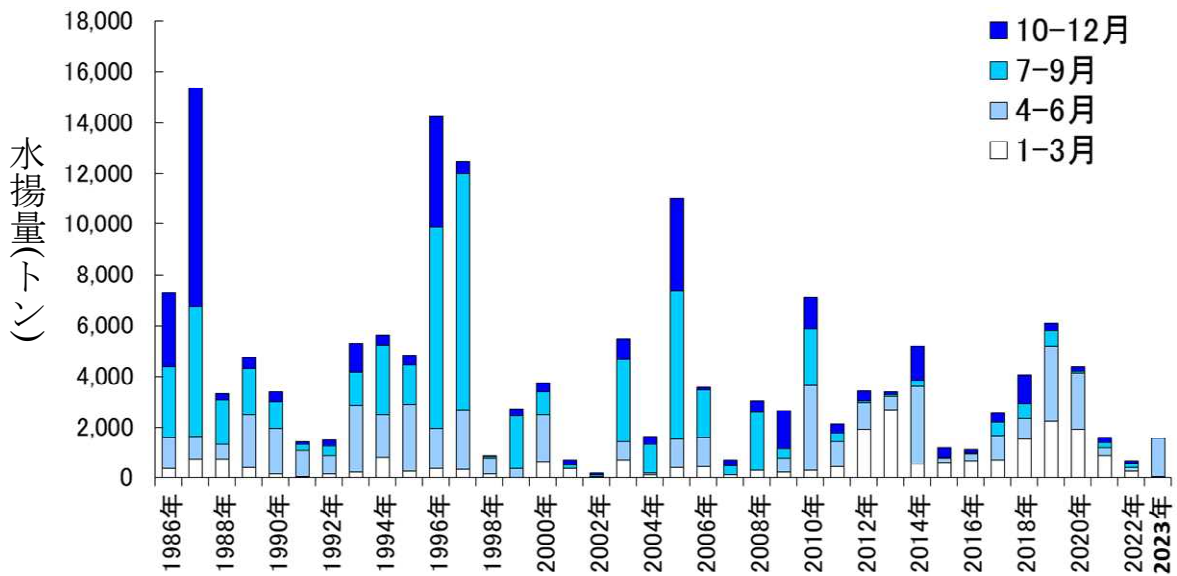


図9 まき網によるサバ類（マサバ・ゴマサバ）水揚量（鶴見・米水津・蒲江支店）

今後の見通し＜2023年8月～12月＞

来遊量:

豊後水道南部への来遊量は、マサバは低水準であった前年並でしょう。ゴマサバは低水準であった前年を上回るでしょう。（2022年8～12月：249トン）

水揚対象年級群および体長:

近年、期間中はマサバ0～1歳魚が水揚げの主体でした。2023年はゴマサバ0～1歳魚が主体となる月もみられるでしょう。

【説明】

例年、予測期間中は2022～2023年級群（0～1歳魚）が水揚げの主体となります。マサバ太平洋系群の資源状態は良好であると推定されていますが、2023年の来遊量は海況等の影響によって低水準となる見込みです。ゴマサバ太平洋系群の資源水準は低く推定されていますが、豊後水道では4月～5月にゴマサバの良好な加入がみられました。これらのことから、2023年8月～12月の来遊水準は低水準であった前年並～上回ると予測しました。

その他

■予測の根拠および参考資料

・予測は、国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所および関係都道府県による、「2023年度第1回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報会議」結果を基に、最新の情報を加味して行っています。

URL: <https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/pr2023/index2.html>

■用語解説

①近隣海域：ここでは3県（宮崎県・愛媛県・高知県）の海域とし、高知県の水揚量の前年比は、宿毛湾における中型まき網によるものとししました。

②被鱗体長：体の前端から、尾柄の鱗で覆われている部分の後端までの直線距離。

③尾叉長：体の前端から、尾びれの湾入部内縁中央(くびれている部分)までの直線距離。

■問い合わせ先

この予報に関する問い合わせ先は、大分県農林水産研究指導センター水産研究部 資源増殖チームまで。

〒879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦194-6

電話:0972-32-2155

FAX:0972-32-2156